

【短報】飼育下で確認されたマルガタゲンゴロウの産卵基質

マルガタゲンゴロウ *Graphoderus adamsii* (Clark) は、水田や池沼などに生息する止水性の水生甲虫である。本種は水田で繁殖することが知られており（西城，2001；Watanabe *et al.*, 2013），V溝直播栽培および移植栽培で耕作された水田において幼虫が確認されている（Watanabe *et al.*, 2013）。産卵にはイボクサとスズメノテッポウを基質として利用することが報告されているが（渡部，2011），本種の繁殖生態に関する知見は乏しい。本種は、環境省版レッドリストにおいて絶滅危惧Ⅱ類，千葉県版レッドデータブックにおいて重要保護生物（環境省版レッドリスト基準の絶滅危惧ⅠB類相当）に選定されていることから（千葉県レッドデータブック改訂委員会，2011；環境省自然環境局野生生物課，2018），繁殖生態の解明は保全を行う上で重要である。筆者らは、飼育下で本種の産卵基質を確認したのでここに報告する。

第一著者の山崎は2018年6月6日に千葉県白井市で採集した本種の飼育を6月6日より開始した。飼育を継続していたところ，同年9月14日の8時39分に本種の成虫がコナギの茎を齧りその組織内に産卵するのを確認した（図1）。産卵後の茎を割いてみたところ中から卵が確認された（図2）。

自然条件下における本種の産卵は，初夏（6月29日）の水田において確認されており（渡部，2011），同水田では7～8月に幼虫が出現している（小路ほか，2015）。また，三田村ほか（2017）は5～8月が幼虫の出現期としている。飼育下ではあるが本種がコナギに産卵する様子が確認されたこと，コナギは本種の繁殖地である水田に生育すること，本種の繁殖期と考えられる初夏から夏には葉を展開しており産卵可能な状態であることなどを踏まえると，本種は自然下においてもコナギを産卵基質として利用しているものと推測される。

引用文献

- 千葉県レッドデータブック改訂委員会，2011. 千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—動物編 2011年改訂版. 538 pp. 千葉県環境生物部自然保護課.
 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室，2018. 環境省レッドリスト2018の公表について. (2018年11月30日参照) <https://www.env.go.jp/press/105504.html>
 小路晋作・伊藤浩二・日鷹一雅・中村浩二，2015. 省力型農法としての「不耕起V溝直播農法」が水田の節足動物と植物の多様性に及ぼす影響. 日本生態学会誌，65：279–290.
 三田村敏正・平澤 桂・吉井重幸，2017. 水生昆虫1 ゲンゴロウ・ガムシ・ミズスマシハンドブック. 176 pp. 株式会社文一総合出版.



図1. コナギに産卵するマルガタゲンゴロウ.



図2. コナギに産卵された卵.

- 西城 洋，2001. 島根県の水田と溜め池における水生昆虫の季節的消長と移動. 日本生態学会誌，51：1–11.
 渡部晃平，2011. マルガタゲンゴロウの産卵基質を自然下で確認. ホシザキグリーン財団研究報告，(14)：59–60.
 Watanabe, K., S. Koji, K. Hidaka, & K. Nakamura, 2013. Abundance, diversity, and seasonal population dynamics of aquatic Coleoptera and Heteroptera in rice fields: effects of direct seeding management. Environmental entomology, 42: 841–850.

- (山崎 駿 263–8522 千葉県稲毛区弥生町1–33
 千葉大学理学部化学学科)
 (渡部晃平 920–2113 白山市八幡町戊3番地
 石川県ふれあい昆虫館)